

「南京大虐殺は史実か」

2017年9月15日

エラスムス平和研究所 所長 岩村義雄

「南京大虐殺」について現代の日本人は関係がないと開き直れるでしょうか。

2017年9月7日～12日に、南京における第16回「歴史認識と東アジアの平和」に5年連続で出席し、思わせられました。中国が38人、日本から37人、韓国から30人の計105人です。オブザーバー参加が、米国から2人、ドイツから1名です。宗教者は筆者以外に、イエズス会の光延一郎[みつのぶ 1952-]上智大学教授たち3名です。各国には独自の歴史観がありますが、共通の歴史観を話し合うために3か国が持ち回りでフォーラムを開いてきました。



食事した隣接の紫金庁 左から Lester Kurtz, 川上哲, 劉成南京大学教授, Egon Spiegel, 筆者。



出席者全景 前列左から5人目 大日方純夫教授(右は笠原十九司先生) その後ろが筆者 2017/9/8

日本で生まれ育った梁澄子(ヤン・チンジャ)さんは、「創氏改名, 母国語を奪われた, 父母, 祖父母, 曾祖父母のアイデンティティは継承したくても, 日本では通用しなかった」と語られました。大日方純夫[おびかた 1950-]早稲田大学教授も語りました。「日本人が真実を見つめ直し, 被害者意識 sense of being victimized から, 加害者意識を健全にもてた時に, アジアの人々から尊敬, 信頼を勝ち得る」と。

自分たちの知らない国や地域で起こったことを想像できる力を持つということ, 直接の戦争体験者が少数になりつつある今, 戦争の時代に生まれていなかった世代が過去の歴史を想像する機会と力をもつことは日本が国際的に孤立するかどうかの分岐点になります。

大学センター試験では, 日本の近現代史がテストに出ないため, 受験生は学びません。ですから慰安婦, 強制連行, 南京大虐殺など知りません。一般に, 自分が理解できないものには不寛容, 排除思考です。

隣国に行く機会もない日本の若者たちは不幸と言えます。メディアも朴 槿恵[パク・クネ 1952-]前政権がわずか100億ウォン[10億円]で日本に慰安婦問題の幕引きをはかると, 報道しました。つまり, 慰安婦生存者の名誉と韓国人の自尊心を傷つけました。韓国の安保まで安売り渡した朴前大統領がなぜ韓国で不評かについて, 日本のマスコミは沈黙しました。ですから, 少女像などについて, 日本人はどうして理解しようとしめない空気, 一般的な風潮, エトスが日本列島を覆っています。

一步, 日本を出て, 東アジアから日本を見つめると戦前前に逆戻りしている観があります。1933年2月, 国際連盟総会は日本軍に満州からの撤退を勧告。リットン調査団報告を審議, 日本のみの反対, 賛成42か国で可決されました。翌3月に日本は国連に耳を傾けず, 国連を脱退しました。今秋, ユネスコの記憶遺産に慰安婦が登録されるなら, 同様の道を日本は選択してもなんらおかしくない状態が醸成されています。

9月11日, フィールワークとして, 2015年12月1日に完成した記念館「利濟巷慰安所旧址(きゅうし)」を訪問しました。アジア最大の慰安所旧跡とされています。1937年南京城を陥落させた日本軍20万人の性欲処理のため, 南京市に40の慰安所が作られて, 20万人の慰安婦が強制動員されました。



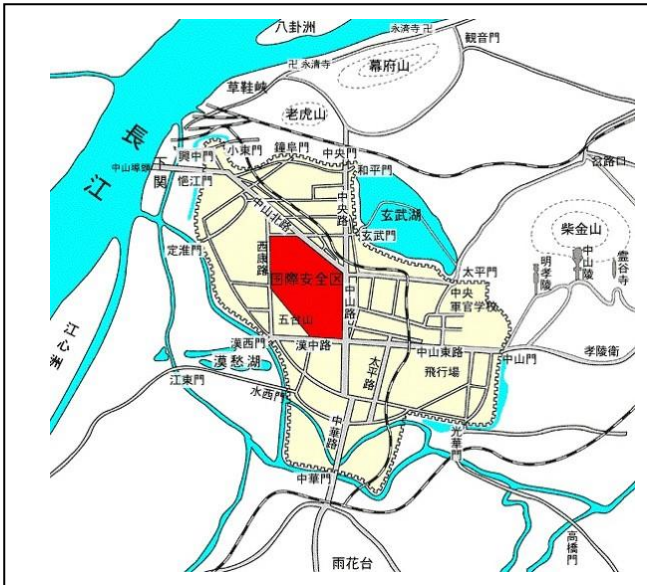
記念館「利濟巷慰安所旧址」

日本軍「慰安婦」について、ユネスコの「記憶遺産」へ2499点の証拠資料がオランダ、インドネシア、東チモール、台湾、米国、英国などから提出。「慰安婦」とは、1932年の第一次上海事変から1945年の敗戦までの期間に、戦地・占領地で日本陸海軍がつくった慰安所で軍人・軍属の強制的に性の相手をさせられた女性たちのことです。当時、国際都市南京在住の欧米の外交官、宣教師たち、ドイツの企業家などの実録から680枚の写真が提示されています。当時の各国の報道紙にも南京大虐殺のニュースの見出しは躍りました。『ニューヨーク・タイムズ』（1937年12月17日付）によると、日本軍が“捕虜全員、民間人も殺害。南京を恐怖が襲う。”“大規模な略奪、婦人への暴行、民間人の殺害。住民を自宅から放逐し、捕虜の大量処刑、青年男子の強制連行などは、南京を恐怖の都市と化した。”日本の右翼は「アメリカ軍が自分たちの罪を相殺」するための画策と主張しますが、ドイツ人のシーメンス社ジョン・ラーベ[1882-1950]中国支社総責任者兼ナチ党南京支部副支部長は自分の邸宅の敷地にハーケンクロイツ旗を掲げ、日本空軍の爆撃から千人近くの避難者を守りました。ヒトラーに日本軍の暴虐、レイプ、強奪を直訴した手紙がラーベ記念館にありました。



マギー宣教師の撮影道具

右翼は、南京大虐殺、731部隊、慰安婦について、「ねつ造」と強弁します。しかし、存在しない記録、資料、日本軍の証言等を改ざんしているわけではありません。中国人はじめ国連人権委員会は当時の日本、海外の報道、南京在住の外国人たちの記録、日本陸軍の中樞の阿南惟幾[あなみ これちか 1887-1945] 陸軍大将 南京視察メモ「軍紀風紀の現状は皇軍の一大汚点なり。強姦、略奪たえず」や、現憲法の戦争放棄条項を高く評価された三笠宮崇仁[みかさのみや たかひと 1915-2016] オリエンタリズム研究者の発題を無視できません。三笠宮は2月11日の紀元節復活を批判するばかりか、日本軍の「略奪、強姦、良民の殺傷、放火等」と執筆していました。中曽根康弘[1918-] 元首相は、「三千人からの大部隊だ。やがて、原住民の女を襲うものやバクチにふけるものも出てきた。そんなかれらのために、私は苦心して、慰安所をつくってやったこともある」と記録しています（『終りなき海軍』中曽根康弘 1978年 98頁）。



1937年12月 南京市人口 地図



南京市総人口は 1937 年 3 月末の時点では 101 万 9667 人でした（『南京事件』首都警察庁調べ 笠原十九司 219 頁）。1937 年 11 月 23 日、日本軍の空爆、海軍の揚子江からの集中砲火により、半数近くに減りました。南京陥落の 12 月 13 日の人口は 50 万人であることは証明されています。「南京安全区国際委員会」が管理する安全区（難民区）内に逃げ込んだ人数だけでも約 20 万人とされています。安全区とは、南京市の西北方の約 3.8 平方キロ（南京総面積の約 8 分の 1）です。当時の南京市の人口は 20 万人というのは安全区だけの人数にすぎません。南京大虐殺を否定する人々は、当時の南京市の人口について言及します。20 万人しかいなかったのに、30 万人虐殺するとはおかしいとはねつ造だと右翼は強弁します。30 万人もいなかったから、南京大虐殺は「なかった」派の論駁は浅はかです。数の違いによって「虐殺」そのものがなかったという開き直りは世界には通用しません。「虐殺」というのは人間として生涯を突然の恐怖によって抹殺されることです。人権、平和に生きてきた人生、家族愛について日本兵によってずたずたに無残に切り裂かれたのです。ヒロシマ、ナガサキ、フクシマの呻きには感情移入できても南京大虐殺について無関心なのは鉄面皮です。



南京住民 95歳の宗さん

はじめての南京訪問で思わせられました。80年前に犯した父親、祖父たちの世代の罪について関係がないとは言えません。戦時下、江戸時代でも連帯責任が問われました。連帯とは横の関係だけではなくありません。縦の関係も同様です。親がいればこそはじめて私たちもこの世に命として表れたのです。したがって、父祖の罪も背負うのは宿命です。あれだけの虐殺、慰安婦たちの涙、暴虐について無実とはどの日本人も言えません。「否定の論理」をもって、近隣アジア諸国に謝罪、補償を未来永劫にわたってドイツ国のようにすべきでしょう。行き帰り同行させていただきました毎日新聞社の湯谷茂樹編集委員は外国語、地理、歴史にも精通しておられ、たくさんの刺激を受けました。



右側 湯谷茂樹氏 (毎日新聞社)

「かつてあったことは、これからもあり かつて起こったことは、これからも起こる。太陽の下、新しいものは何ひとつない」と南京の虐殺された血の叫びが刻み込まれました(コヘレト 1:9)。